



大阪有機化学工業株式会社  
OSAKA ORGANIC CHEMICAL INDUSTRY LTD.  
のびゆく力、未来へ

## 会社説明会および 2009年11月期決算説明会資料

2010年2月3日



### 目次

- |      |                 |     |      |
|------|-----------------|-----|------|
| I.   | 2009年11月期連結決算   | ... | p.2  |
| II.  | 2010年11月期連結業績予想 | ... | p.9  |
| III. | 成長戦略・中期事業計画の状況  | ... | p.22 |

# I. 2009年11月期連結決算

## 業績概要(連結)

(百万円、%)

	08/11	09/11		
			増減	前年比
売上高	24,539	18,140	△6,399	74%
営業利益	1,133	428	△705	38%
経常利益	1,190	495	△695	42%
当期純利益	331	△528	△859	—

### ■売上高:前年比 74%

- 減収要因は、各産業界における需要の急減による販売減。

### ■営業利益、経常利益:共に大幅減益。

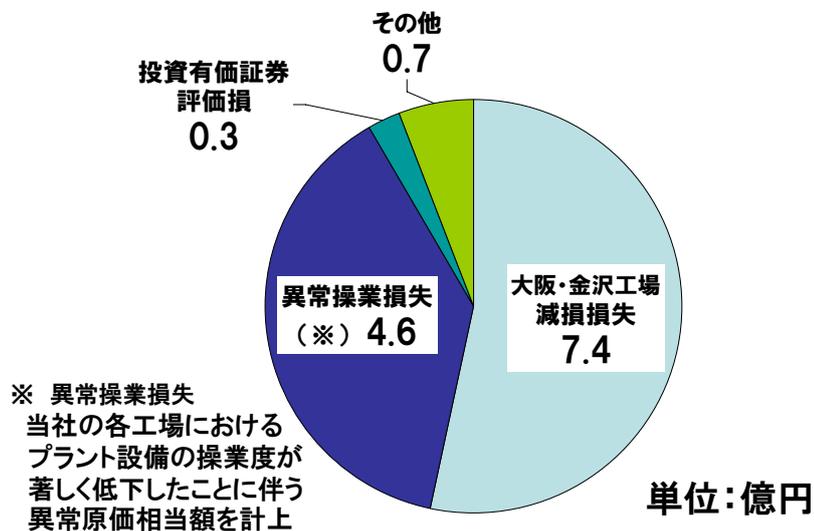
- 減益要因は、景気低迷による売上高の減少。

### ■当期純利益:特別損失による大幅減益。

- 特別損失の内訳は、異常操業損失、大阪工場・金沢工場の減損損失。

## 業績概要(連結)

### 期末 特別損失(13億円)の内訳



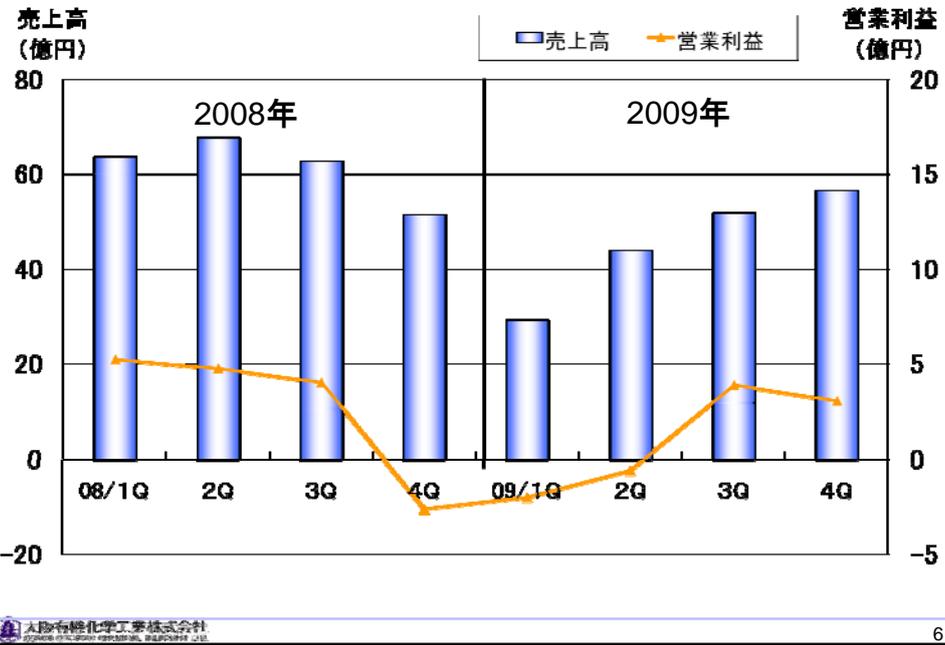
## 部門別売上高(連結)

(百万円、%)

	08/11	09/11		
		増減	前年比	
売上高	24,539	18,140	△6,399	74%
エステル化製品部門	12,041	9,083	△2,958	75%
特殊化学品部門	11,169	8,223	△2,946	74%
営業利益	1,133	428	△705	38%

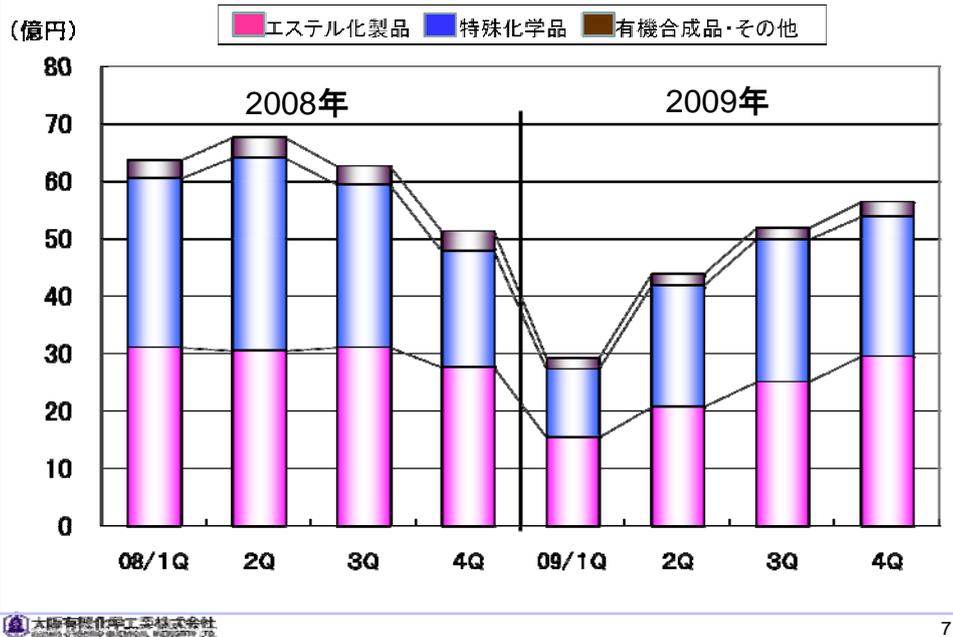
- エステル化製品部門・・・前年比 75%
  - アクリル酸エステル19%減。メタクリル酸エステル33%減。
- 特殊化学品部門・・・前年比 74%
  - 電子材料 32%減。化粧品 8%増。医薬中間体 11%減。その他ファイン 22%減。

## 売上高と営業利益の四半期推移



6

## 部門別売上高の四半期推移



7

## 2009年11月期 業績のまとめ

1. 1Qは景気低迷による  
販売の急激な減少
2. 2Q以降は順調に回復、  
3Qからは黒字基調

## II. 2010年11月期連結業績予想

## 今後の取り組み

1. 販売の強化
2. 生産性の改善による原価低減
3. 研究開発の強化

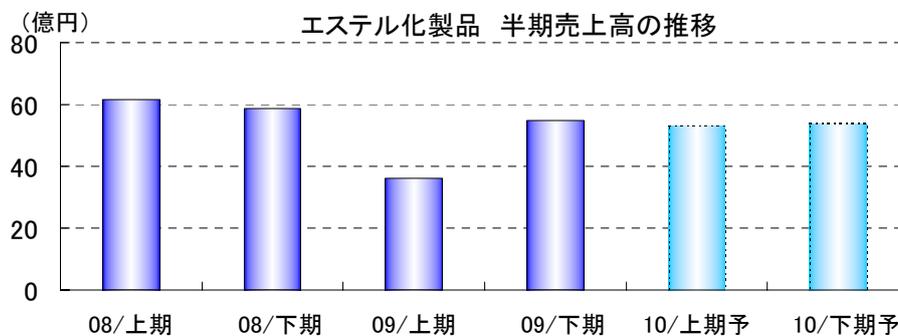
## 1. 販売の強化(業績回復に向けた取り組み)

### 1) エステル化製品

主力のアクリル酸エステル:

2007年度ピーク時の80%程度まで回復

注力分野:自動車塗料・電材向け  
海外市場への拡販



## 1. 販売の強化

### 2) 特殊化学品

#### ① 電子材料グループ

販売数量は回復傾向だが、価格下落による利益率低下

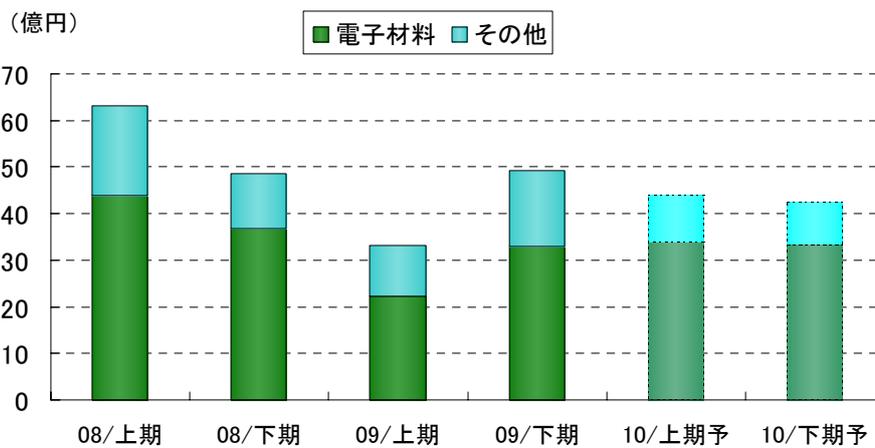
- ⇒ 現状シェア維持と新市場への拡販
- ⇒ 新規周辺材料の提案

#### ② 化粧品ポリマー・医薬中間体・その他ファイングループ

- ・生体適合性材料の特性を活かした新規材料の提案
- ・新規医薬中間体の投入
- ・新規撥材の開発

## 1. 販売の強化

特殊化学品 半期売上高の推移



## 2. 生産性の改善による原価低減①

エステル化製品の**金沢工場**への移管・集約による生産合理化

- 1) **大阪工場**で生産している製品の**金沢工場**へ移管・集約を推進。  
製造工程の合理化と稼働率上昇によるコストメリットを確保。
- 2) **金沢工場**のエステル化製品の生産性改善検討による  
コスト削減。

## 2. 生産性の改善による原価低減②

### 生産コスト削減に向けた取り組み

- ・ 製品の合理化を目的とした移管の推進  
(再整備計画の見直し)

- ① 2014年を目処に大阪工場生産製品を  
金沢工場及び酒田工場に移管完了
- ② 大阪工場 減損会計処理  
6億3千8百万円  
(2009年2Q 特別損失)



再整備前の大阪工場製造プラント

### 3. 研究開発の強化①

#### 1. 積極的研究設備投資による迅速な顧客対応

- 1) 新研究棟を金沢工場に建設(2009年7月完成):  
工場密着型研究の強化による迅速な顧客対応
- 2) 新パイロットプラント設備を金沢工場に建設(2009年1月完成):  
①技術改良の促進 ②迅速な事業化



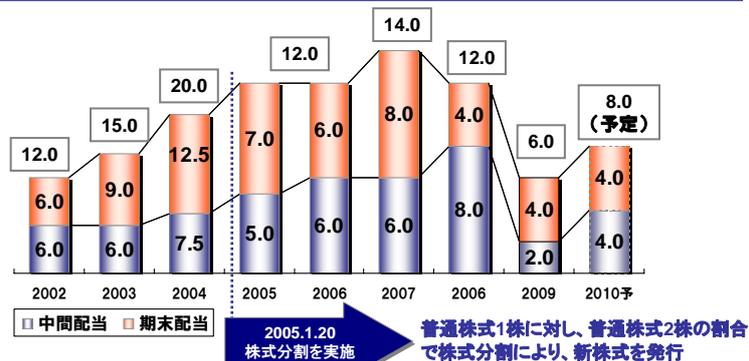
新研究棟



パイロットプラント設備

### 1株当たり配当金(実績と予想)

2010年度 年間配当金 8円を予定  
中間配当4円、期末配当4円



#### ■利益配分に関する基本方針

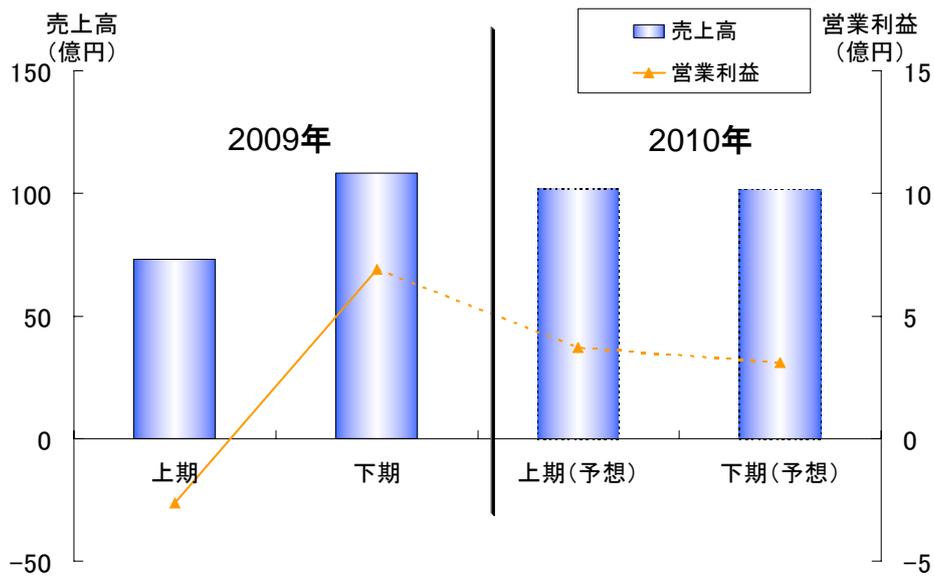
配当額 : 業績や今後の事業計画に備えた内部留保の充実等を勘案してバランスをとりつつ決定。  
内部留保: 将来につながる新製品、新技術へ向けての研究開発投資や生産能力増強、合理化や高付加価値化へ向けての設備投資等の原資として活用。

## 業績予想概要(連結)

(百万円)、%

	09/11	10/11		
		予想	増減	前年比
売上高	18,140	20,398	2,258	112%
営業利益	428	683	255	160%
経常利益	495	684	189	138%
当期純利益	△528	394	922	—

## 売上高と営業利益の半期推移



## 部門別売上高予想(連結)

	10/11通期(予想)			<ご参考> 09/11末 (実績)
	(百万円、%)	増減	前年比	
エステル化製品部門	10,714	1,631	118	9,083
特殊化学品部門	8,668	445	105	8,223

- エステル化製品部門・・・電子材料及び自動車向け塗料原料の堅調な推移
- 特殊化学品部門・・・・・・半導体関連材料の回復

## 設備投資・減価償却・研究開発費



### ■主な設備投資案件(2010/11期)

- 金沢工場 エステル化製品製造設備(移管対応)
- 金沢工場 研究パイロットプラント設備・分析機器等
- 酒田工場 排水処理設備
- 酒田工場 福利厚生設備

### III. 成長戦略・ 中期事業計画の状況

#### 成長戦略の基本軸

##### 選択と集中による持続的な成長力の構築

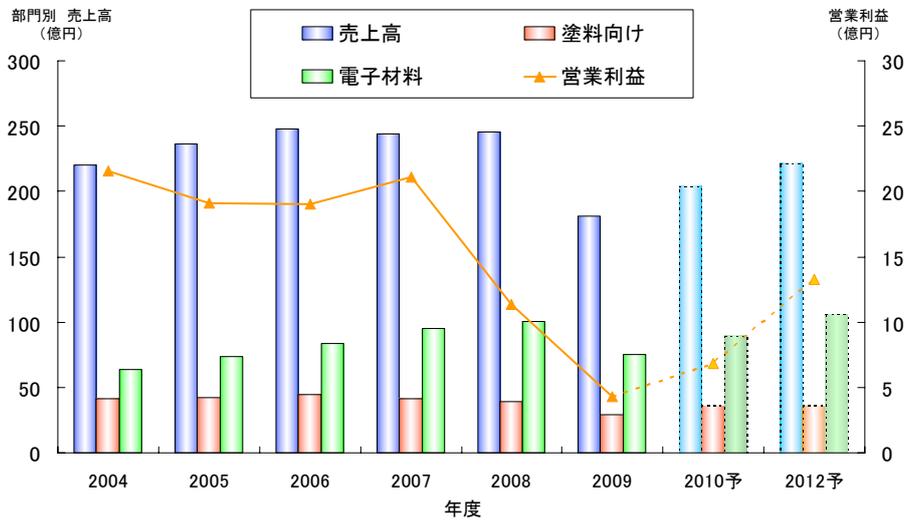
- I. 新製品開発のための技術力の強化
- II. 品質・コスト競争力の向上
- III. 顧客の拡大とマーケティングの充実

##### 企業の社会的責任の実現と企業価値の向上

- IV. 安全・環境・コンプライアンスの重視
- V. コーポレートガバナンスの充実
- VI. 財務体質の強化

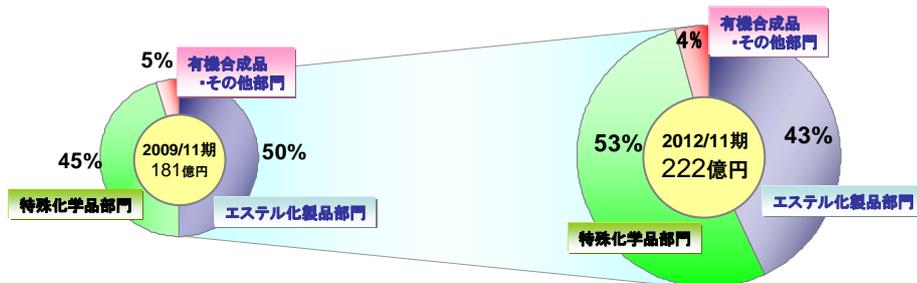
## 当社の現状

### 部門別売上高と連結営業利益の推移



## 中期事業計画 収益目標(2012/11期)

	2012/11期目標値		
	(百万円)	09/11期比	
売上高	22,167	4,027	122%
営業利益	1,328	900	310%
経常利益	1,350	855	273%
当期純利益	777	1,305	—



## 設備投資・減価償却・研究開発費

(億円)

	過去3期計	3期累計予想	
	(07/11~09/11)	(10/11~12/11)	増減
設備投資	54	48	△6
減価償却費	50	51	1
研究開発費	27	34	7

### ■主な設備投資

大阪工場移管に伴う金沢工場・酒田工場への製造設備  
 新製品の工業化に伴う特殊化学品製造設備  
 パイロットプラント製造設備・分析機器等  
 福利厚生設備

## アクリル酸エステル事業の展開

【外部環境】

各産業界の景気後退



【今後】

基盤事業としての強化

- コスト競争力強化
- 新規モノマーの開発

UVインキ・コーティング・オプトエレクトロニクス材料・粘接着剤等幅広く展開  
 コスト競争力の強化と新製品開発

短期

固定費の削減

プロセス改善  
 製造拠点の集約

顧客の拡大

海外の販売強化  
 アジア・新興市場



中長期

新製品の開発

顧客要望に応えた材料

- 光カチオン系モノマー(OXEシリーズ)
- 高感度用モノマー(V-1000シリーズ)
- 高希釈・低毒性モノマー(DOLシリーズ)

## 電子材料事業の展開

【外部環境】

エレクトロニクス市場の変動

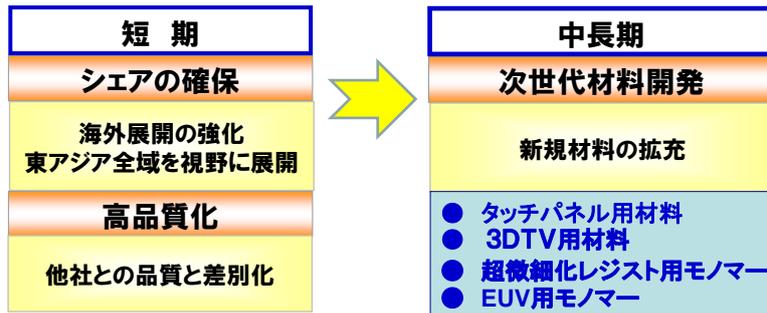


【今後】

安定した高収益性の確保

- 量的拡大と次世代材料開発

液晶ディスプレイ・半導体分野を中心に継続した新規材料開発を展開



## 新規事業・新技術の創出

### ターゲットとする新規事業



### 研究体制の強化 次世代の中核事業の創出

- 大学・外部研究機関との連携 コア技術の研鑽・新技術の習得
- プロジェクト創導による新規分野への挑戦

## 位相差フィルムの3DTVへの展開

2010. 1. 13 プレスリリース

光硬化型パターンング位相差材料  
「SIRシリーズ」の開発実用化



当社の光硬化技術による液晶パネル部材の新製品

液晶パネルの薄型化・低コスト化・3DTVに対応した  
新規光硬化型位相差材料「SIRシリーズ」の開発

## 環境対応及び基盤技術

環境対応と基盤技術拡充への強化

環境負荷低減技術

基盤技術拡充

### 重点項目

#### 技術的な視点

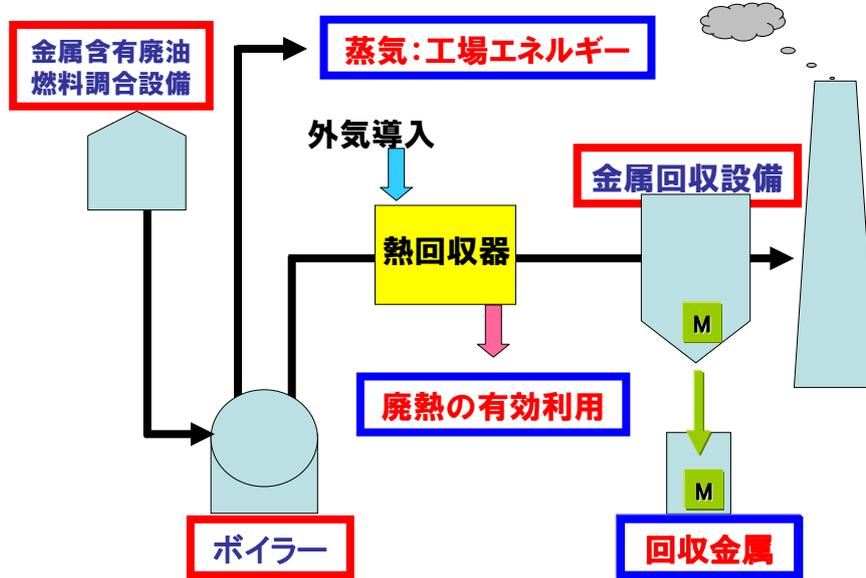
エネルギー・廃棄物量の削減  
(廃油の燃料化設備)

#### 公的研究機関との 共同研究による基礎技術拡充

- ・エステル化製品の製法
- ・新規製造技術
- ・生体適合材料
- ・表示材料

これらの開発

## 廃油の燃料化設備について①



## 廃油の燃料化設備について②

2009年11月より稼動開始

- ・ボイラーとして蒸気の活用
- ・熱の回収利用
- ・有価金属の回収
- ・共同開発による特許化





大阪有機化学工業株式会社  
OSAKA ORGANIC CHEMICAL INDUSTRY LTD.

のびゆく力、未来へ

本資料の予想数値等は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、本資料の内容と異なる場合があります。したがって、いかなる確約や保証を行うものではありません。

## ご参考1 比較連結貸借対照表

(百万円)

項目	08/11末	09/11末	増減	備考
<b>資産合計</b>	26,573	26,387	<b>△186</b>	
流動資産	12,208	12,342	134	たな卸し資産の減少
有形固定資産	11,497	10,533	<b>△1,675</b>	建設仮勘定の減少
投資その他の資産	2,864	3,509	645	有価証券の増加
<b>負債合計</b>	7,577	7,695	118	
流動負債	6,130	4,667	<b>△1,463</b>	未払金の減少
固定負債	1,447	3,028	1,581	長期借入金の増加
<b>純資産合計</b>	18,995	18,692	<b>△303</b>	利益剰余金の減少
少数株主持分	192	151	<b>△41</b>	
<b>負債純資産合計</b>	26,573	26,387	<b>△186</b>	

## ご参考2 キャッシュ・フロー（連結）

（百万円）

項目	08/11	09/11	備考
営業活動による キャッシュフロー	3,117	2,099	減価償却・たな卸資産 の減少
投資活動による キャッシュフロー	△1,190	△2,825	有形固定資産の取得 による支出
財務活動による キャッシュフロー	△871	1,271	長期借入による収入
現金及び現金同等物の 増加額	1,055	545	
現金及び現金同等物の 期首残高	693	1,748	
現金及び現金同等物の 期末残高	1,748	2,293	

## ご参考3 3DTV用偏光フィルム

微細パターニングが可能な光硬化型位相差材料。

